

教員プロフィール

岩村 充(イワムラ ミツル)



職位

教授

専門分野

金融論

講義科目

企業の経済学Ⅰ
コーポレート・ファイナンスA
コーポレート・ファイナンスB

経歴

1974年、東京大学経済学部卒業、日本銀行に入る。同行営業局、ニューヨーク駐在員、金融研究所、日本公社債研究所出向(現 R&I)などを経て、1998年、早稲田大学教授。現在に至る。早稲田大学博士。

対外活動

法務省「電子取引法制に関する研究会」委員(～1999年12月)、日本証券アナリスト協会「証券アナリスト試験委員会」委員(～2000年3月)、通産省「アジア通商金融研究会」座長(1998年4月～2000年3月)、大蔵省「金融審議会第一部会」委員(1998年9月～2000年12月)、経済産業省「独立行政法人評価委員会」委員兼貿易保険部会長(2001年1月～2010年4月)、財務省「独立行政法人評価委員会」委員(2003年2月～)、株式会社カカコム監査役(2006年6月～2010年6月)、富士火災海上保険株式会社取締役(2010年6月～)など。

研究業績一覧

日本語

https://www.wnp7.waseda.jp/app/ip/ipi0211.html?lang_kbn=0&kensaku_no=1160

英語

https://www.wnp7.waseda.jp/app/ip/ipi0211.html?lang_kbn=1&kensaku_no=1160

主要著書一覧

『入門企業金融論』日本経済新聞社(1994年)、『銀行の経営革新』東洋経済新報社(1995年)、『電子マネー入門』日本経済新聞社(1996年)、『サイバーエコノミー』東洋経済新報社(2000年)、『企業金融の理論と法』東洋経済新報社(共著・2001年)、『新しい物価理論』岩波書店(共著・2004年)、『企業金融講義』東洋経済新報社(2005年)、『貨幣の経済学』集英社(2008年)など。

メッセージ

私の主たる関心は金融における情報の役割です。金融サービスの本質が情報の生産であることは理論の世界ではすでに常識ですが、実務の世界においても、システム運営や証拠性保持の問題から始まり、資本市場における企業価値形成や金融政策効果波及プロセスの解析に至るまで、情報の役割を無視しては何も語る事ができなくなっています。そうした情報と金融の関わり合いを皆さんと一緒に考えて行きたいと思っています。研究室活動については、以下のURLも参照してください。

<http://www.f.waseda.jp/iwamuram/>

ゼミについて

私の研究室の活動(ゼミ)のテーマは「情報と金融」と「コーポレート・ファイナンス」です。2010年度からは2つのゼミを提供しています。

ゼミのテーマのうち「情報と金融」というのは、主として平日の昼に大学院に通う皆さんと一緒にいるゼミ活動のテーマです。金融ビジネスにおける価値創出の源泉は、信用という名の情報の生産と管理であることは金融理論の世界ではすでに常識ですが、私たちのゼミは、単に理論を学ぶのではなく、それを実務に応用する可能性を、証券化やリスクファイナンスあるいはM & Aなど具体的な金融の場面で発見することを目的としています。金融をテーマにした研究は取っ付き難い印象があるかもしれませんが、私たち

のプロジェクトの目的は実務への展開ですから難解ではありません。金融機関での仕事に関心がある人だけでなく、企業における資金調達や投資について関心がある諸君にとっても、きっと有意義な活動ができると思います。

一方、ゼミのテーマのうち「コーポレート・ファイナンス」というのは、主として平日の夜と土曜に働きながら大学院に通う皆さんと一緒に学ぶために 2010 年度から始めた活動のテーマです。こちらのコースはモジュール制といって、いくつかの科目を組み合わせで用意し、職業人としての専門性を高めてもらおうというのですが、とくにモジュールとしての「コーポレート・ファイナンス」では、金融機関や事業会社の財務部門などで金融の実務に携わっている人、今は別の世界で仕事をしているが金融の仕事に関心がある人、そうした人に集ってもらい、あわせて他のモジュールでの研究や学習にも参加してもらうことで、専門性と広い視野とを兼ね備えた新しい自分になることを応援したいと思っています。なお、科目設定としては、私自身が講義とゼミを担当するほか、日本総研の翁百合さんに客員教授として講義とゼミを担当してもらい、さらにみずほ証券の高田創さん・香月康伸さん・杉浦秀徳さん、そしてブーズ・アンド・カンパニーの松田千恵子さんにも講義を担当してもらうことになっています。